

自然と文化科 活動記録 「歴史文化散策」

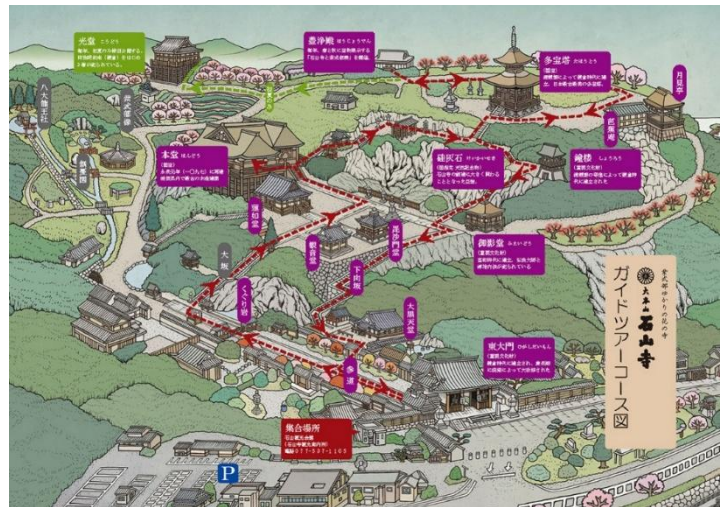
日時	2025年7月11日(金) 9:45~14:45	担当者
場所	京阪石山寺駅～石山寺散策(無憂園で昼食)～京阪石山寺駅・蛭谷公園 ～瀬田川ぐるりさんぽ道～瀬田唐橋・竜王宮秀郷社～建部大社～京阪唐 橋前駅	文・写真 中澤重文
備考	参加者数：1班16名、2班16名、3班12名、4班13名 計57名 天気：晴れ	

◎石山寺

東大門から参道を進むと、入場口のすぐ右手にくぐり岩、その横の急な石段を登りつめた正面には、寺名の由来になっている硅灰石(石灰岩が花崗岩の熱作用によって接触変質したもの)の奇岩・怪岩が見えてくる。

その左手には懸崖造の本堂が硅灰石の斜面に建っている。本尊は秘仏の如意輪観音半跏像で、西国三十三所巡礼の第13番札所。本堂の一角にある「源氏の間」では紫式部の執筆風景が再現されている。

本堂の横の石段を登った所には、源頼朝の寄進により再建された日本最古の多宝塔がある。



◎瀬田唐橋

瀬田川は古代から戦略上重要な位置を占め、「唐橋を制するものは、天下を制する」といわれた。

俵藤太秀郷は、この橋の上で瀬田川に住む竜神に会い、その依頼により三上山の大ムカデを退治した伝説で知られている。近くに竜王宮秀郷社があり、竜神と秀郷が合祀されている。

◎建部大社

最後は旧東海道を歩き、近江国一之宮の建部大社まで足をのばす。祭神は日本武尊で、源頼朝が流罪にて伊豆へと向かう途中、当大社に立ち寄り源氏再興を祈願したところ、願いがかなったことから、武運の神として多くの信仰を集めた。

炎天下最後まで歩かれた皆様方お疲れ様でした。

